special time

RAN

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ｓｐｅｃｉａｌ　ｔｉｍｅ

【Ｎコード】
Ｎ７１６２Ｔ

【作者名】
ＲＡＮ

【あらすじ】
生徒会長は放課後毎日、図書室に入り浸っている。
わざわざ時間外に図書館を尋ねるその理由とは？

※サイト、ｄノベ転載。

「何で会長っていつも生徒会長に選ばれるんだろうねー」
生徒会室での作業中、書記長が言った。
「そりゃ、俺が圧倒的信任を得ているからに決まってるだろう」
「だって、いつも会長一人しか立候補しないじゃん」
「だいたい生徒会なんて面倒だから、そんなもんだろ。嫌なら不信任すりゃいいんだ」
「不信任こそしないよ。一人しかいないのに。また投票の準備するの面倒だもん」
生徒会長は、そう言う書記長をじろりと睨む。
「……言いたいことがあるなら、言えよ？」
書記長も、負けじとにらみ返した。不敵な笑みを浮かべて。
「……何かやってない？」
「やるかよ。何だよ。俺が会長で不満なら言えよ」
「いや、ちょっとからかってみたかっただけ。信用してますぜー、会長」
「お前……」
「ほら、二人とも手がおろそかになってる。今日中にこの書類全部冊子にしないといけないんだから」
副会長の冷静な指摘が入って、また静かに作業に戻った。

作業が終わっての生徒会長の楽しみは、図書室に行くことだった。
図書室は五時には閉められてしまうので、作業が遅くなると入れないこともあった。
今日も、五時を過ぎてしまったが、生徒会長は急いで図書室へと向かう。
図書室には「ｃｌｏｓｅｄ」の看板がかかっているので、図書準備室のドアをノックした。

「今日はちょっと遅かったみたいだね。残念」
ドアの奥から、軽い少女の声が聞こえる。
「悪い。また入れてくれねぇ？　あと、これ返す本」
生徒会長は苦笑いを浮かべて頼み込む。
「そんな忙しいのに、よく読む暇あるね」
中の人物は、しょうがないなとため息をはきながらドアを開けた。
「まぁ、人の上に立つ者のたしなみってヤツだろ」
生徒会長は、片手をあげて、図書準備室の中に入って言う。
少女は、そこからつながる図書室の扉を開けた。
「人の上に立つなら、利用時間もちゃんと守ってほしいな」
少女の笑顔での言葉に、生徒会長は苦笑いを浮かべるしかなかった。
「まぁ、堅いこと言うなよ」
きまり悪そうに、少女から視線をそらす。
「休み時間にくればいいんだよ」
少女は、片づけ作業に戻りながら言う。
「十分じゃあ、本返すぐらいしかできねぇよ」
「用もないのに生徒会室にいる時間があるなら、図書室来れば？」
「そんなことないぞ。何でそんなこと思うんだよ」
「だって、いつも生徒会室って人がいるイメージあるから。何してるんだろうと思って」
「色々あるんだよ」
「色々ねー」
少しの沈黙が流れる。
「なぁ、なんかお前のおすすめの本とかねぇの？　読みたいヤツ、結構読んじまったから、新規開拓でもしてみようかと思うんだが」
「んー……これは？」
少女は作業の手と別に本を取り出し、生徒会長に渡す。
「……『パンドラの匣』……太宰治か。なんか暗いなー」
生徒会長は、本の表紙・背表紙をくるくると交互に見て、中身を

めくる。
「む、その作品は暗くないよ。暗いなんて偏見だよ」
少女は、生徒会長のその言葉に、心外だと言わんばかりに唇をとがらせ、睨みつけた。
「そ、そうか。じゃあ、これ借りてくわ」
少女の気迫に気おされ、生徒会長は苦笑いを浮かべて答えた。
「はい、じゃあ、これに記入して」
少女はそう言って、カードと鉛筆を生徒会長に渡した。
生徒会長は慣れた手つきでそこに記入する。

「どうもどうも」
準備室から出て、鍵を閉める少女に、生徒会長は言った。
「先生も黙認してくれてるけど、なるべく時間内にお願いね」
「はいはい」
生徒会長は、やる気があるのかないのか、曖昧な返事をして、図書室前の階段を下りて、玄関へと向かった。

「あ、会長お帰りですかー」
「ん、何だお前ら。まだいたのか」
「いやぁ、会長がいつも生徒会終わった後に、ウキウキしながらどこに行くのかなーと思って、気になってたんだよねー」
「図書室かー、ふーん」
「何だよ」
「何だよも何もないよ。そんなニヤニヤしちゃってさ。腹立たしいったらないね。どうせ利用時間外に行くのもわざとなんでしょ。困った会長だね」
「どこにそんな証拠があるってんだよ。俺はちゃんと本を読んで返してるんだからな。生徒会があるのも嘘じゃないさ」
「はいはい。せいぜいそう言って、ニヤニヤしてればいいよ」
「何だよ、お前らがニヤニヤしてるんじゃねぇかよ」

生徒会長は、少しばつの悪い顔をしていた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7162t/

special time

2011年6月7日04時29分発行